

# 海外における日本語教育の現状および教材の調査

## — 初級・初中級編 —

ヨフコバ四位エレオノラ（富山大学）

yovshii@las-u.toyama.ac.jp

稲葉和栄（秀明大学）

p-inaba2@mailg.shumei-u.ac.jp

久保田美子（目白大学）

yoshikokubota52@gmail.com

### 【要約】

日本国外で使用・開発されている日本語教材に関しては、体系的に整理した研究がなく、言語学習状況を把握するための情報が不足している。本研究は、日本国外における日本語教育の現状および教材に関するパイロット調査の結果報告である。本調査の狙いは、日本語教材利用の実態および日本国外で発売、自費出版、無料配布されている日本語教材の実態を把握することである。

### 1. はじめに

本研究では、日本国外における日本語教育の現状および教材に関するパイロット調査（初級・初中級編）の結果を報告する。

日本国外の教育現場では、日本国内で開発された教材を使用している場合もあるが、日本国外の現地で独自に開発された教材を使用している場合もある。しかし、日本国外で使用・開発されている日本語教材に関しては、体系的に整理した研究はない。そのため、日本国内の教師が、海外から留学してきた学習者がそれまでどのような教材でどのように学習してきたのか、その背景を把握するための情報が不足している。また、日本国外の現地で開発・使用されている教材は、言語学習をどう捉え、何を目的にどのように編纂されているかという実態も明らかになっていない。本研究では、このような問題意識に立ち、日本国外の日本語教育の現状および教材に関して調査を試みた。まだパイロット調査の段階ではあるが、現時点で明らかになったことを報告する。

### 2. 日本語教材の研究と本研究の役割

最初に、対象とする日本語教材について述べる。本研究では、日本語を学習するときに利用される教材全般を対象とする。したがって、主教材、副教材（併用教材）、教科書、単体や付属の視聴覚教材と呼ばれるもの全般を対象とし、出版の有無にはこだわらない。また、媒体としては紙媒体だけでなく、インターネット上のウェブ教材なども含む。ただし、教具類は含まない。

日本語教材の研究にはさまざまな視点からの研究がある。吉岡・本田編（2016）によれば、歴史的変遷を追うためにさまざまな年代の教材を比較分析するものと、現在使用されている教材を分析する

ものにまず分けられるという。本研究では後者の現在使用されている教材に注目する。また、現在使用されている教材の分析にも、第二言語習得研究の観点からの分析やコーパスから見る研究、実際の使用との関係性、たとえば、教師と教材の関係、学習者と教材の関係、カリキュラムと教材の関係などを分析するものがある。本研究の最終目的は、このようなさまざまな研究のための基礎的な情報を提供することであるが、情報収集の際に、実際の使用との関係性についても同時に調査する場合もあるため、直接的には、実際の使用との関係性の分析に役立つものとする。

### 3. 本研究（パイロット調査）の位置づけ

前述の通り、本研究はパイロット調査である。最終的な目的としては、日本国外で作成、使用されている日本語教材の情報収集を行い、データベースを作成し、教材開発などに役立てることを目指している。そのためにはまず、データとして何を集めるべきなのかを精査する必要がある。教材のデータには、明示的に教材そのものに示されているものと、示されていないものがある。作成のコンセプト、コンセプトのもととなっている教授法、シラバスのタイプ、現地知識（クリフォード 1999）などに関しては、さまざまなデータをもとに分析したり、時には教材の作成者にインタビューしたりすることによってはじめて明確になるものもある。何のために、どこまで明示化されていないことに関して踏み込んで分析し、情報として提供するのかを検討する必要がある。そのために、今回まずパイロット調査を実施することにした。

### 4. パイロット調査について

利便性を考慮して Google Form を用いて作成した。実施期間は 2019 年 4 月から 6 月までである。海外の教師会や研究会、メーリングリストなどのネットワークを通じて広く協力を呼びかけた。内容は、第 1 部の機関の基本情報と、第 2 部の日本語教材利用の実態調査から成り、第 2 部では「初級・初中級・中級レベルの使用教材」、「使用している主教材、併用教材、自作教材の組み合わせ」、「現地で発売、自費出版、無料配布されている日本語教材」などについて尋ねた。本調査の内容は以下のとおりである。

表 1 「海外における日本語教育の現状および教材の調査」 質問項目

#### 第1部 日本語教育機関の基本状況

質問1	国名・所在地
質問2	機関名
質問3	所属機関のURL・ 機関の日本語教育部門のURL
質問4	教育機関の種類
質問5	日本語コースのレベルと学習者数
質問6	日本語教育に携わっている教員の数（日本語母語話者教員（以下、NT）、日本語非母語話者教員(以下、NNT)の数と専任教員、非常勤数などの内訳)

#### 第2部 日本語教材の使用状況

質問1	科目名・授業名
-----	---------

質問2	内容（総合日本語・読解・作文・会話など）
質問3	レベル（CEFR・JLPT）
質問4	学生数
質問5	科目を担当する教員（NT、NNT、NTとNNT）
質問6	使用教材の組合せ A.主教材のみ B.主教材と副教材の併用 C.担当教員の自作教材 D.主教材と自作教材 E.主教材＋副教材＋自作教材
質問7	現在、使用している教材情報 1.市販されている使用教材情報 1.①主教材情報（書籍名・出版社・刊行年月日・価格・ISBNなど） 1.②副教材情報（書籍名・出版社・刊行年月日・価格・ISBNなど） 2.自作教材に関する情報（製作者・製本状態・製作年度・ページ数・内容・販売状況・価格・使用言語・ISBNなど）
質問8	自国で製作・出版・無料配布などされている教材情報（製作者・製本状態・作成年度・ページ数・内容・販売状況・価格・使用言語・ISBNなど）

## 5. パイロット調査の結果

### 5. 1 アンケート回答機関の基本情報

15 개국 51 機関からの回答が得られた。国別の回答数は、インドネシア 23、タイ 7、ハンガリー 4、イギリス、ドイツ、ブルガリア、が 2 機関、エジプト、オーストラリア、カナダ、韓国、ケニア、セルビア、台湾、ボスニア・ヘルツェゴビナ、メキシコ、モンゴル、ロシアが 1 機関であった。

51 機関の区分は、大学 49% (25 校)、高等学校 27% (14 校)、小学校 4% (2 校)、小・中等学校 4% (2 校)、中・高等学校 4% (2 校)、公開講座、市民講座、語学学校、派遣などのその他が 12%(6 校)と、大学が回答の約半数を占めている。

初級から上級レベルのうち本発表で主な対象とした初級・初中級レベルの基本情報について以下にまとめる。学習者数と機関は表 2 のとおりである。

表 2 初級・初中級レベルの学習者数と機関数

学習者人数	学校数	機関別(学校数)
1-50 人	13 校	大学(6 校)、その他(4 校)、高校(2 校)、小中学校(1 校)
51-100 人	7 校	大学(6 校)、小学校(1 校)
101-150 人	4 校	大学(3 校)、高校(1 校)
151-200 人	5 校	大学(3 校)、小学校(1 校)、高校(1 校))
201-250 人	3 校	大学(3 校)
251-300 人	1 校	高校(1 校)

301-350 人	1 校	大学(1 校)
401-450 人	2 校	大学(1 校)、高校(1 校)
451-500 人	2 校	大学(1 校)、高校(1 校)

日本語教員数に関しては表 3 に、日本語母語話者教員 (NT) か、または、日本語非母語話者教員 (NNT) のみしか在籍していないのか、両教員が在籍しているのかについて機関数と各教員数をまとめた。

表 3 日本語教員数

日本語教員	教員数 (機関数)
NT のみ	1 名 (7 校)、3 名 (1 校)、4 名 (1 校)、5 名 (1 校)、18 名 (1 校)
NNT のみ	1 名 (13 校)、2 名 (2 校)、3 名 (4 校)、4 名 (1 校)、6 名 ((1 校)、7 名 ((1 校)、16 名 (1 校)
NT と NNT の両方	合計 2 名 (1 校)、3 名 (4 校)、4 名 (2 校)、5 名 (2 校)、9 名 (2 校)、11 名 (2 校)、12 名 (1 校)、23 名 (1 校)、40 名 (1 校)

本調査では、NT のみで日本語教育を行っている機関が半数以上にのぼり、NNT のみの機関が約 25% ある結果となった。

## 5. 2 使用教材状況

### 5. 2. 1 市販されている教材

ここでは使用されている初級・初中級レベルの教材のうち、市販されているものについて述べる。本稿における市販教材とは、日本国内でも出版されており一般的な流通経路で購入が可能なものを指す。また、CD や DVD のみの教材は含んでいない。

32 機関、47 授業で初級・初中級の授業がおこなわれており、そこで使用されている市販の主教材・副教材は 77 種類であった。本調査では、例えば「本冊」「練習帳」など教科書名が同じもの、「初級」「中級」などのレベルに分かれている場合は、同一教材として数えた。以下に、表 4 に授業別の使用教科書を、表 5 に授業全体の使用教科書を示す。

表 4 授業別使用教科書 (初級・初中級)

技能	レベル	教科書名	授業数
コミュニケーション能力	初中級	通訳への近道	1
	初中級	通訳訓練	1
話す・聞く	初級	日本語初級 大地	1
	初級	まるごと 日本のことばと文化 活動	1
	初級	Shadowing 日本語 話そう	1
	初級	みんなの日本語初級 聴解タスク 25	1
会話	初中級	げんき	3
	初中級	まるごと 日本のことばと文化	3

	初中級	みんなの日本語	2
作文	初中級	大学生のための日本語表現トレーニング	1
読解	初級	さくら	1
文法	初級	げんき	2
	初級	さくら	2
	初級	みんなの日本語	3
総合日本語	初級	みんなの日本語	15
	初級	げんき	12
	初中級	まるごと 日本のことばと文化	10
	初級	日本語・キラキラ	6
	初中級	とびら	5
	初級	できる日本語	2
	初級	EASY and FUN HIRAGANA	1
	初級	EASY and FUN KATAKANA	1
	初級	Japanese for Busy People	1

表5 授業全体の使用教科書（初級・初中級）

教科書名	授業数	教科書名	授業数
みんなの日本語	21	EASY and FUN KATAKANA	1
げんき	17	Japanese for Busy People	1
まるごと 日本のことばと文化	14	Shadowing 日本語話そう	1
にほんご・キラキラ	6	大地	1
とびら	5	大学生のための日本語表現トレーニング	1
さくら	3	通訳への近道	1
できる日本語	2	通訳訓練	1
EASY and FUN HIRAGANA	1	日本語教授法	1

コミュニケーション能力、聞く・話す、会話、読解、文法といった技能別授業の使用教材では、授業名に技能名がはいつても教材面では総合教科書を使用している回答が最も多かった。次いで、作文と総合日本語以外の授業では主教材と併用して同教材シリーズの技能別付属教材（例『みんなの日本語 やさしい作文』）を使用していることがわかった。本調査では、このレベルの作文の授業に関する回答は1例のみであり、この授業では独立した技能別教材を使用していた。技能に特化した教材を使用していると回答したのは作文のみであった。今回の調査では、初級の技能別授業では、総合教科書を使うか、総合教科書と同一シリーズの教科書を使うケースがほとんどで、単独の技能別教材が使用された例は作文のみであった。しかし、事例そのものが少ないため初級レベルの技能別教材についてはさらなる情報の収集をおこなっていく。そのうえで、初級では技能別に特化した個別教材の使用が低い状況の分析をすすめる必要がある。また、レベルと使用教材の内容（例：初中級での『通訳への道』）についても、フォローアップインタビューなどで現場1つ1つの状況を丁寧に拾い上げ、教

材使用と学習背景について考察を深めていきたい。総合日本語では、『みんなの日本語』（15 授業）、『げんき』（12 授業）、『まるごと 日本のことばと文化』（10 授業）の 3 教科書で全体の 56%を占める結果となった。

## 5. 2. 2 教材の組み合わせ

本節では、教材の組み合わせについて述べる。教材の組み合わせに関する回答結果は以下の通りであった。

表 6 教材の組み合わせに関する回答

組み合わせ	件数(単位：授業)
A 市販の主教材のみ	18
B 市販の主教材と市販の副教材の併用	10
C 担当教員の自作教材のみ	2
D 市販の主教材と自作教材の併用	7
E 市販の主教材+市販の副教材+自作教材	10
合計	47

市販の主教材のみの使用の場合が 18 例、他との組み合わせで市販の主教材を使用している例が 27 例あった。市販の主教材の使用率が高いことがうかがわれるが、教師が自作教材を作成している例も、単独使用が 2 例、他との組み合わせが 17 例と、決して少なくないことがわかった。以下、表 7-11 に示した A から E の場合について個別に紹介する。

### A 市販の主教材のみの使用

どのような市販教材が使われているかについては、5. 2. 1 で述べた通りであるが、具体的に、その市販教材を主教材として、そのみで使用している例について述べる。表 7 には、市販の主教材のみを使用しているという回答をまとめた。

表 7 A 市販の主教材のみの使用

機関	国	内容	レベル	担当教員	主教材
大学	ブルガリア	総合日本語	初中級	NNT&NT	みんなの日本語 初級
大学	エジプト	会話	初級	NT	まるごと 日本のことばと文化 活動
大学	エジプト	会話	初級	NT	まるごと 日本のことばと文化 活動
大学	ハンガリー	総合日本語	初級	NNT&NT	げんき
*大学	ハンガリー	文法	中級	NT	中級日本語文法要点整理ポイント 20

大学	ハンガリー	文法	初級	NT	げんき
大学	インドネシア	総合日本語	初級	NNT	みんなの日本語 初級
大学	インドネシア	総合日本語	中級	NNT	初級からの日本語スピーチ
大学	インドネシア	会話	初級	NNT	みんなの日本語 初級
大学	インドネシア	会話	中級	NNT	みんなの日本語 初級
大学	インドネシア	総合日本語	初級	NNT	みんなの日本語 初級
大学	モンゴル	総合日本語	初級	NT	できる日本語 初級
大学	モンゴル	作文	初中級	NT	大学生のための日本語表現トレーニング
一般 講座	ドイツ	総合日本語	初中級	NT	まるごと 日本のことばと文化
	ドイツ	総合	中級	NT	まるごと 日本のことばと文化
個人	韓国	総合	初中級	NNT	まるごと 日本のことばと文化
高校	インドネシア	総合日本語	初級	NNT	日本語・キラキラ
高校	インドネシア	総合日本語	初級	NNT	日本語・キラキラ
高校	インドネシア	総合日本語	中級	NNT	日本語・キラキラ

\*灰色反転になっているのは、本報告では、中心的には取り上げないレベルである。以下同様。

表 7 から、大学、一般講座では、日本で出版された市販教材の利用が多く、高校では、カリキュラムに合わせてそれぞれの国で作成された市販教材の利用が多いことがわかる。

## B 市販の主教材＋市販の副教材

次に市販の主教材とともに、さらに市販の副教材を組み合わせて使用している場合について述べる。

表 8 B 市販の主教材+市販の副教材

機関	国	科目内容	レベル	担当教員	主教材	副教材
大学	ブルガリア	総合日本語	初級	NNTとNT	みんなの日本語	みんなの日本語
大学	イギリス	総合日本語	初級	NT	まるごと日本のことばと文化・活動 入門 A1	まるごと日本のことばと文化・理解 入門 A1
		総合日本語	初中級	NT	まるごと日本のことばと文化・活動 初級1 A2	まるごと日本のことばと文化・理解 初級1 A2
大学	ハンガリー	総合日本語	初中級	NT	上級へのとびら	上級へのとびら これ以身につく文法力

大学	タイ	聞く・話す練習	初級	NNT	みんなの日本語初級①聴解タスク25	Shadowing 日本語話そう
		コミュニケーション能力	初中級	NNT	通訳への近道	通訳訓練
大学	ブルガリア	総合日本語	初級	NNTとNT	みんなの日本語	みんなの日本語
大学	タイ	読解	中級	NNTとNT	日本語を学ぼう	読売新聞
教育センター	ハンガリー	総合日本語	初級	NT	DEKIRU	GENKI
個人	韓国	総合日本語	初級	NNT	みんなの日本語初級	みんなの日本語聴解、書いて覚える文型練習、標準問題集
初中等	タイ	総合日本語	初級	NT	まるごと日本のことばと文化理解	まるごと 日本のことばと文化活動
中学・高校	インドネシア	総合日本語	初級	NNT	nihongo1,2 nihongo kira-kira	Kurikulum2013

市販の主教材と市販の副教材の組み合わせの場合、市販の主教材の付属教材を利用している場合がほとんどであるが、別教材を組み合わせている場合もある。『まるごと 日本のことばと文化』に関しては、「活動」編を主教材、「理解」編を副教材とする場合を想定してつくられているが、「理解」編を主教材として使用している場合もあるようである。

次に自作教材の導入について述べる。

### C. 自作教材のみの使用

表9は自作教材のみを授業で使用している場合を整理したものである。

表9 C 自作教材のみ

機関	国	科目内容	レベル	担当教員	自作教材					
					作成者	製本状態	制作年	ページ数	内容	販売状況
大学	ブルガリア	翻訳・通訳、言語統合論	中級	NNT	教員個人	No	2004	約100	翻訳・通訳、言語統合論	No
大学	ドイツ	読解を中心とした総合日本語	初中級	NT	大学	No	随時	100	主にオンラインのニュース関連テキスト(テーマ別、毎回一部更新)、単語リスト、文法教材など。ただし、副教材として市販の漢字用教材使用(とびら)	No



大学	インドネシア	日本語の言語学入門	中級	NNT	大学	No	2016	290	日本語学を紹介する教材。大学で日本語を学ぶ学生が主な対象	No
大学	インドネシア	観光ガイドにっかう日本語	中級	NNT	教員個人	No	2017年ごろ	約50	内容:観光案内やガイドに必要な日本語 対象:自大学の学生のみ	No
大学	タイ	総合日本語	中級	NNT	(無回答)	No	2018	50	日本語能力試験 N3~N1 の過去問題が主な内容	No
大学	タイ	総合日本語	初中級	NNT	教員個人	No	2018	30	いろいろなガイドの本や観光についての本からとって工夫して資料をつくった。各地の観光地のグループの仕事でのデザイン	No

自作教材のみの授業をおこなっている機関は、全て大学機関である。また、初中級から中級レベルでの使用であり、多様性に合わせて作成しているように考えられる。非母語話者教員の授業で使われていることから、非母語話者教員自身が独自に作成している可能性が高い。こうした非母語話者教員が作成している教材に関する情報はあまり一般に知られていない場合が多い。今後より詳しく調査して一般に情報提供する必要があるものとする。

#### D. 市販の主教材+自作教材

次に、市販の主教材に加えて自作教材を使用している場合について述べる。

表 10 D 市販の主教材+自作教材

機関	国	科目内容	レベル	担当教員	主教材	自作教材					
						作成者	製本状態	制作年	ページ数	内容	販売状況
大学	カナダ	総合日本語	中級	NT	『レベルアップ日本語文法』『聞いて覚える話し方日本語生中級初中級編2』『日本語総まとめN3漢字』	教員個人	NO	毎年(追加・削除・改訂)	約300	4技能対象・当大学の学生向け	NO
大学	イギリス	総合日本語	初級	NNTとNT	Genki 1		on-line	every year since 2013	不明	Elementary	NO
		総合日本語	初級	NNTとNT	Genki 1 Chapter 8+ Genki 2 up to Chapter 16		on-line	2013	不明	Elementary N5/4; target: students from Business School and School of Humanities; reading practice, grammar practice, kanji practice	NO

		総合 日本語	初級	NT	Japanese for Busy People II		on- line	2013	不明	N4; Students from Business School and School of Humanities	NO
大学	ハンガリー	会話	初中級	NNTと NT	まるごと、げんき、み んなの日本語など		NO	随時	随時状況 による	練習問題など	NO
		総合 日本語	初中級	NT	特になし		NO	2013	状況によ る	特になし	NO
大学	ハンガリー	文法	初級	NNT	げんき1		NO	不明	不明	不明	NO
大学	メキシコ	総合 日本語	初中級	NT	GENKII	個人	NO	2017年～	約50	主教材に合わせた補助的な内 容。復習・練習問題など	NO
		総合 日本語	初級	NT	GENKII	個人	NO	2017	約50	教科書に合わせた内容。復習・ 練習問題など	NO

表 10 からわかるように、市販の主教材がある場合、自作教材は主教材の補助レベルのものが多い。

#### E 市販の主教材+市販の副教材+自作教材

次に市販の主教材、副教材を使い、さらに自作教材を組み合わせている場合について述べる。表 11-1 は、どのような主教材と副教材を組み合わせ、さらに自作教材を組み合わせているかを表にしたものであり、表 11-2 は、それぞれの自作教材の詳細を示したものである。

表 11-1 E 市販の主教材+市販の副教材+自作教材

機関	国	科目内容	レベ ル	担当 教員	主教材	副教材	自作 教材
大学	カナダ	読み書き	中級	NT	レベルアップ日本語文法、中・上級の ための速読の日本語、日本語総まとめ N3 漢字	はじめての文学(文藝春秋)	○
大学	カナダ	総合 日本語	初級	NT	みんなの日本語初級 II	まるごと日本のことばと文化 など	○
大学	カナダ	会話と 漢字	初級	NT	げんき1	げんきの周辺教材 など	○
大学	メキシコ	総合 日本語	中級	NT	ビジネス日本語30時間	しごとの日本語メールの書き方編	○
大学	ブルガリア	総合 日本語	中級	NNTと NT	J501	日本への招待、毎日の聞きとり40など	○
大学	ドイツ	総合 日本語	初級	NT	みんなの日本語	まるごと日本のことばと文化	○
大学	インドネシア	総合 日本語	初中 級	NNT	みんなの日本語、 日本語教授法ほか	みんなの日本語	○
大学	台湾	文法	初級	NNTと NT	みんなの日本語	みんなの日本語 読解編、みんなの日 本語 文型練習帳	○
大学	タイ	Speaking & Listening	初級	NT	まるごと 日本のことばと文化 A1 かっ どう	日本語初級大地(メインテキスト+タイ語 文法説明)タイで出版された合本	○

高校	インドネシア	総合 日本語	初級	NNTと NT	nihongo kira kira	nihongo manabu	○
大学 設置 市民 講座	ボスニア・ ヘルツェゴ ビナ	総合 日本語	初級	NT	げんき1	EASY and FUN HIRAGANA, EASY and FUN KATAKANA, げんき付属ワ ークブックなど	○
		総合 日本語	初中 級	NT	げんき12	げんき12のワークブック	○
		総合 日本語	初中 級	NT	げんき2, 上級へのとびら	げんき2のワークブック、とびらの文法 ワークブック、漢字教材、とびらウェブ からダウンロード可能な文法と漢字の ワークシート	○

表 11-2 E 市販の主教材+市販の副教材+自作教材 - 自作教材の詳細

機関	国	科目内容	レベル	作成者	製本 状態	制作年	ページ 数	内容	販売 状況
大学	カナダ	読み書き	中級	授業担当 教員	No	毎年(追加・削除・ 改訂)	約150	読み書きに関連する活動・練習のためのもの・当大学の学生向け	NO
大学	ドイツ	総合 日本語	初級	大学	No	2003年	約200	初・中級	NO
大学	ハンガリー	会話と 漢字	初級	授業担当 教員	No	2003年から常にい ろいろ作っています	不明	会話の授業なので、ゲームやカードが多い。PPTもよく作る。N5レベル	NO
大学	メキシコ	総合 日本語	中級	授業担当 教員	No	2018年	約30	復習・練習問題	NO
大学	ブルガリア	総合 日本語	中級	授業担当 教員	No	前のページと同じ	前のペ ージと 同じ。	同じ	NO
大学	ドイツ	総合 日本語	初級	授業担当 教員	No	げんきに関して、 他クラスと同じ	同じ	同じ	NO
大学	インドネシア	総合 日本語	初中 級	授業担当 教員	Yes	2015年	100	level/N5,N4. Target: university students from the Japanese language department, Skill: composition & reading Content: practicing writing e-mails etc.	NO
大学	台湾	文法	初級 (NT (毎年異なる))	NT (毎年異なる)	No	毎年	毎年違 う	論文指導	NO
大学	タイ	Speaking & Listening	初級	大学	No	2003年	200以 上	初級・中級	NO
高校	インドネシア	総合日本語	初級	他機関	No	2008年	152	復習、新しい言葉、文型、短い文、長い文、 会話	自国 のみ で販 売
大学 設置 市民 講座	ボスニア・ ヘルツェゴ ビナ	総合 日本語	初級	授業担当 教員	No	2017年ごろ	50	みんなの日本語の文法項目に沿った練習 項目	NO
		総合 日本語	初中 級	授業担当 教員	No	2018年	34	動詞の活用表と日本語初級大地の言葉リス トにアクセント記号をつけたもの	NO

		総合 日本語	初中 級	授業担当 教員	No	特こなし 毎年改良	特こなし 毎年改良	教科書の内容のポイントをまとめた PPT 教材。導入から簡単な文法のパターン練習、応用練習も含まれる。げんき内のすべての漢字を写真やイラストを豊富に取り入れたスライド。	NO
--	--	-----------	---------	------------	----	--------------	--------------	--	----

主教材、副教材にさらに自作教材を組み合わせる場合、主教材の補助的な教材の場合も多いが、それだけではなく、多様な教材の組み合わせを考えて作成されているものもある。また、初級、初中級、中級レベルと、さまざまなレベルでの事例が見られる。

以上、教材の組み合わせについて述べた。これまでの結果を整理すると以下ようになる。

1) 市販の主教材を利用している場合が多い。

47 例中、単独使用が 18 例、他との組み合わせ使用が 27 例。

大学で使用されている市販の主教材は、日本で出版されているものも多かった。

2) 教師が自作教材を作成している例も少なくない。

47 例中、単独使用が 2 例、他との組み合わせが 17 例。

3) 組み合わせて使用する場合、副教材、自作教材の内容は、市販の主教材の補助的な役割を果たす場合が多いが、初中級以降では、多様性への対応を考えたものも見られた。

4) 自作教材の作成は、非母語話者教員 (NNT) が独自に作成する場合が多かった。

今後、2) 3) 4) の結果について詳細に調査することが必要であり、そのことが有効なデータ作成へとつながるものとする。

### 5. 2. 3 日本国外の現地で発売・作成されている教材

3. で述べたように、本研究の最終目的は、日本国外で発売・作成されている教材のデータ収集・提供であるが、今回のパイロット調査では、まず一部の国・地域に関して情報収集をおこなった。14 カ国から 52 回答が得られた。実施したアンケート調査では、次の質問をした：「あなたの国で発売、自費出版、無料配布されている教材がありますか」。回答者の 54% (28 回答) が「ある」と答えた。回答には、日本で市販されている教材 (『みんなの日本語』、『げんき』、『まるごと 日本のことばと文化』、『Japanese for Busy People』) も含まれていたが、日本で市販されている教材を除いた海外で発売・作成されている教材に関しては、13 冊について回答が得られた。その情報を表 12 に示す (一部の教材に関しては情報が不足または不明であった。また、同じ教材に関して重複する回答もあった)。

表 12 日本国外の現地で発売・作成されている教材

国名	教材情報
タイ	①日本語あきこと友だち 改訂版 (2017) Papa Sangthongsuk, Yuki Nakao. 国際交流基金バンコクセンター ②こはるといっしょにほんごわあ〜い (2013) Papa Sangthongsuk, Takashi Miura, Yasujiro Takei, Naoko Takatsuka. 国際交流基金バンコクセンター
セルビア	③ <i>Udžbenik japanskog jezika: Korak po korak</i> (以下、日本語いっぱい) (2014) Ljiljana Markovic, Divna Trickovic. ベオグラード大学文学部、KOKORO
オーストラリア	④ <i>Jblog 1 textbook</i> (2016) Liberty Campbell. Manten Resources

ドイツ	⑤ <i>Japanisch, bitte! Neu</i> (2104) Yoshiko Watanabe-Rögner, Noriko Matsui-van Lessen, Nanako Suga-Krick, Yoshiko Watanabe- Rögner. Ernst Klett Sprachen
	⑥ <i>Japanisch intensive</i> (2013) LSI Bochum. Buske, Hamburg
	⑦ <i>Japanische Alltagssprache</i> (2002) Shinichi Okamoto. Buske, Hamburg
モンゴル	⑧日本語できるモン (2015) モンゴル日語教師会
ハンガリー	⑨できる 1、2 (2011,2012) Kiss Sándorné, Sato Noriko, Székács Anna. Nemzeti Tankönyvkiado
インドネシア	⑩にほんご・キラキラ (2017) Evi Lusiana, Hatta Naomi, Igarashi Yuka, Furuuchi Ayako, Mitsumoto Tomoya. Panerbit Erlangga
	⑪日本語 1、2、3 Politeknik Negeri. Manado
台湾	⑫こんにちは 你好 (2018) 陳淑娟. 瑞蘭出版社
	⑬日本語 GOGOGO (2007) 豪風出版社

回答が得られた教材に関しては、より詳細な情報を求め、ネット等を通じて情報収集をおこなった。⑨、⑪以外の教材に関しては、何らかの情報（シラバスや内容の記述、教材のサンプルなど）が見つかり、また、①、②、③、⑤、⑦、⑩の教材は、入手し、内容を直接確認できた。

今回のアンケート調査では、情報を得ることが主な目的であったが、入手できた教材に関しては、中身が確認できたため、簡単な分析もおこなった。日本国外で発売・作成されている教材の分析が本研究の今後の課題であり、分析をどのような基準でおこない進めていくかということが検討中であるため、今回の分析では、仮に以下のような特徴のみに焦点を当ててみた。

一つは、作成源および作成の目的である。作成源は次の三つのカテゴリーに分けることができる：1) 国際交流基金の支援で、現地のカリキュラムにあわせて作成された教材（例）①『日本語あきこと友だち』）；2) 現地で教えている日本語母語話者教員が開発・作成した教材（例）⑦『*Japanische Alltagssprache*』）；3) 現地の日本語非母語話者教員が開発・作成した教材（例）③『日本語いっばいっば』）。一方、作成の目的は、基礎教育カリキュラムのため（①『日本語あきこと友だち』、⑩『にほんご・キラキラ』）、現地の教育の特徴を活かしたもの（③『日本語いっばいっば』）とさまざまである。

今回の分析では、さらに、日本国内で作成・市販されている教材とは何か相違点があるか、あるとしたら、最も異なることは何かも探ってみた。日本国内で作成・市販されている教材との大きな相違点としては次のことが確認できた。一つは、現地の社会文化的状況や宗教上の特徴が反映されているということである。たとえば、イスラム国家であるインドネシアで使用されている『にほんご・キラキラ』には、コアコンピテンシーに明記されている「信仰している宗教の教えをよく理解し実践している」（古内綾子・三本智哉・五十嵐裕佳・八田直美・エフィルシアナ 2017）というコンセプトに沿って、以下の図 1（25 課「プレゼントをもらいます」聴解 Ppt, <https://erlangga.co.id/component/content/article/9579.html>）にあるような宗教に関わる内容が盛り込まれている。これは、特定の国で使用されている教材であるからこそ、許容される作成上の特徴であるといえる。

## 聞いて 言いましょう 1 ① ㊦



図1 『にほんご・キラキラ』 25課「プレゼントをもらいます」

また、文型の提示の仕方に関しても違いが確認できた。たとえば、『日本語いっぽいっぽ』には、その教科書で扱われている文法の類義表現（たとえば、動詞のます形（「ます・ません・ました・ませんでした」）が同時に提示されている。この特徴の背景には二つの要因が考えられる。一つは、現地の教授法の特質である。さらにもう一つは、媒介語（学習者の母語という共通言語）を用いた教育方法である。

『日本語いっぽいっぽ』には、さらに、かなの提示・導入の手順にも、日本国内で作成・市販されている教材との違いがあった。それは、【ひらがな→カタカナ】という一般的な提示・導入順との逆の【カタカナ→ひらがな】という順の提示であった。このような提示・導入の仕方になっている理由に関しては、教科書の作者にその意図を聞いてみないと確言はできないが、学習者が自分の名前の読み書きが先にできるようになり、また早くからカタカナ語に馴染むといったことが考えられる。

今回の分析では、ここまでしか確認できず、また、それぞれの教材の構成やシラバスの特徴、副教材などについては詳細な分析をおこなっていない。これらを研究の次の段階の課題にしたいと考える。

## 6. 本調査に向けての課題

今回実施したアンケート調査は、パイロット調査であり、本研究の第一歩を踏み出した段階である。本パイロット調査では、今後の調査や研究の方針が決定できたが、多くの課題や問題点も見えてきた。

まず、調査方法および調査メディアに関しては、次の問題点が浮き彫りとなった。今回のアンケート調査には Google Form を使用したが、Google Form では、1.アンケートの全体像が見えにくく、回答しにくかった側面があった、2. スマホで答えるのに複雑すぎた、3. アンケート手順の明確化が必要であった、4. Google は中国では使えないため、多くの日本語教育機関がある中国からの回答が得られなかったといった弱点があった。

また、回答には不明な部分も多々あったため、それを解明するためのフォローアップインタビューの実施が今後必要である。

さらに、質問内容の精査をはかり、質問の内容をより明確に（具体的に）する必要がある。

回答者のフィードバックからも次のような問題点が見えた。今回の調査は主に個人を対象におこなったが、個人として答えられないことがあったようで、機関を対象におこなうべきであった。また、

これは質問内容の精査にも関わることであるが、回答を求めていた授業についてはより明確に設定すべきであった。

近年、オンラインの学習方法が増加しているため、コンピューターを介した新しい学習スタイル、つまり、e-learning 教材の調査についても今後検討する必要がある。

## 参考文献

クリフォード・ギアーツ (1999) 『ローカル・ノレッジ 解釈人類学論集』岩波書店

古内綾子・三本智哉・五十嵐裕佳・八田直美・エフィルシアナ (2017) 「インドネシア国家カリキュラム準拠高校教科書『にほんご☆キラキラ』の開発－態度面のコンピテンシーの育成と日本語学習の統合を目指して－」 『国際交流基金日本語教育紀要』13号, 87-100.

吉岡英幸・本田弘之編 (2016) 『日本語教材研究の視点』くろしお出版